

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1999	キブツの乳児と母親における情緒的応答性とアタッチメント表象 Emotional Availability and Attachment Representations in Kibbutz Infants and Their Mothers.	48組の母子。 就寝パターンの異なる2種類のキブツの子ども（共同体での就寝：23名／家庭での就寝：25名）。	Aviezer, Sagi, Joels & Ziv. Developmental Psychology, 35, 811-821	2種類の就寝パターンのキブツのデータから、アタッチメントの世代間伝達における3つの構成要素（母子の情緒的応答性、母親のアタッチメント表象、子のアタッチメント）について、伝達モデルを検証。子のアタッチメントはストレンジ・シチュエーションにより測定、母親のアタッチメント表象は成人愛着面接（AAI）により測定、母子間の情緒的応答性は観察に基づき評定。 →子どものアタッチメントの安定性と母親のアタッチメントの安定性は、情緒的応答性の高さと関連。子どもが不安定なアタッチメントを形成している場合、母子の情緒的応答性は有意に低く、母親のアタッチメントは不安定。一方で、共同での就寝は、情緒的応答性と母子のアタッチメントとの関連を混乱させるものであった。	△
2000	保育における教室の社会的・情緒的風土、子どもと教師の関係性、2年生における仲間関係 Social-emotional classroom climate in child care, child-teacher relationships and children's second grade peer relations.	5年間の縦断研究に参加している307名（ 女児152名）。 4歳および2年生で調査。	Howes, C. Social Development, 9, 191-204.	2年生の時に、仲間との社会的コンピテンスを測定。4歳時に、Preschoolの教室における社会的風土をPeer Flagによって測定。Classroom Behavior Inventoryにより問題行動を測定。Student-Teacher Relationship Scaleによって、教室レベルと個人レベルにおける教師と子どもの関係性の質を測定。 →2年生の社会的コンピテンスを予測するのは（コンピテンスの側面によって異なるが）、preschoolの教室の社会的・情緒的風土、4歳時の問題行動および子どもと教師の関係性の質、現在の子どもと教師との関係性の質、であった。	△
2000	教師の認知した教師と子どもの関係性の一貫性—preschoolからkindergartenまで The consistency of perceived teacher-child relationships between preschool and kindergarten.	3年間の縦断研究に参加した357名と最低1年間参加した793名。	Howes, C.; Philippsen, L.C. & Peisner-Feinberg, E. Journal of School Psychology, 38, 113-132.	子どもと教師との関係性を検討。preschoolが残り1年になった時点から引き続きkindergartenまでの3年間の縦断研究。 →教師は、男児よりも女児との関係性において、親密性が高く、依存性も高いと報告。関係性の質についての教師の認知には、年齢による変化は見られなかった。パス解析により、教師と子どもの関係性の質についての認知、特に葛藤的な関係性についての認知は、preschoolからkindergartenまで一貫していた。さらに、学校における子どもの社会的適応についての教師の認知は、preschoolからkindergartenまで一貫していた。性別、母親の教育、保育の質を統制したうえで、Kindergartenにおける教師と子どもの関係性は、preschoolにおける社会的適応についての教師の認知、およびpreschoolの教師と子どもの関係性によって予測された。	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
2000	対照的な保育環境 I における乳児-保育者のアタッチメント : ドイツ再統一前の集団志向的保育 Infant-care provider attachments in contrasting child care settings I: Group-oriented care before German reunification.	西ドイツの 11~13 カ月児, 40 名。(1987-1989 年)	Ahnert, Lamb, & Seltenheim. Infant Behavior & development, 23, 197-209.	ドイツ再統一以前、西ドイツでは、保育者は子ども同士 (集団) の相互作用を促進するように教育されていた。保育者と乳児とのアタッチメントの安定性を予測する保育者の行動について、集団レベル (共感性、懲罰性、献身性、寛容性)、二者関係レベル (注意の集中、応答性) の程度について検討。1987~1989 年にかけて、被験児の保育所入所後、1~2 日、2~4 週、3~4 カ月時に観察。5 カ月経過時、主要な保育者とのアタッチメントをストレンジ・シチュエーションにより測定。 → 保育者とのアタッチメントが不安定であった乳児 (行動が非常に無秩序であった乳児 (無秩序型: D 型) を含む) が多く、多くの乳児が不十分なケアしか受けていないことを示唆。安定したアタッチメントは、保育者の共感性によって最もよく予測され、二者関係レベルの測定は関連していなかった。	△
2000	対照的な保育環境 II における乳児-保育者のアタッチメント : ドイツ統一後の個人志向的保育 Infant-care provider attachments in contrasting child care settings II: Individual-oriented care after German reunification.	西ドイツの 11~30 カ月児, 70 名。(1993-1997 年)	Ahnert, L. & Lamb, M.E. Infant Behavior & Development, 23, 211-222.	ドイツ再統一後、西ドイツでは、保育者は子ども同士 (集団) の相互作用よりも、保育者と子どもの個人的関係を促進することが推奨された。保育者と乳児とのアタッチメントの安定性を予測する保育者の行動について、集団レベル (共感性、懲罰性、献身性、寛容性)、二者関係レベル (注意の集中、応答性) の程度について検討。 1993~1997 年にかけて、被験児の保育所入所後、1~2 日、2~4 週、3~4 カ月時に観察。5 カ月経過時、主要な保育者とのアタッチメントをストレンジ・シチュエーションにより測定。(手続きは Ahnert, Lamb, and Seltenheim, 2000 に同じ) → ドイツ再統一以前に比べて、保育者の共感性および共感性が向上し、子どもが保育者に対して安定したアタッチメントを形成する割合が上昇。不安定なアタッチメントはまだ少なくないが、無秩序型 (D 型) は減少。乳児一人ひとりに対する保育者の共感性はアタッチメントの安定性を予測しなかったが、集団レベルの共感性の高低がアタッチメントの安定性を予測した。	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
2000	不安定/アンビバレント群の乳児をもつ母親：母親の特徴と保育の文脈 Mothers of anxious/ambivalent infants: Maternal characteristics and child-care context.	イスラエルの乳児と母親、98組。 就寝パターンの縦断データの一部	Scher, A. & Mayseless, O. ChildDevelopment, 71, 1629-1639.	母親への質問紙調査、およびストレンジ・シチュエーションを実施。アンビバレント群のアタッチメント形成に関わる先行要因を検討。→アンビバレント群の子どもを持つ母親は、安定群の子どもの母親に比べて、教育レベルが低く、分離不安が高く、高い育児ストレスを感じていた。アンビバレント群の子どもは気難しい気質であると認知されていた。母親の就労時間が長いこと、子どもが集団保育を受けることも、アンビバレント・アタッチメントと関連していた。この結果は、アンビバレント・アタッチメントの形成要因を明らかにするうえで、母親の態度や一般的な養育方略といったさらに大きな要因を考慮することの重要性を示唆している。	△
2000	母親養育 vs 非母親養育と子どもの発達 Maternal versus nonmaternal care and seven domains of children's development.	59の研究データをメタ分析。	Erel, Oberman, & Yirmiya. Psychological Bulletin, 126, 727-747.	母親養育 vs 非母親養育、子どもの7つの行動指標、潜在的な10の仲介要因の関連を検討。 →非母親養育を受けている子どもは、7つの行動指標において、母親養育の子どもと何ら変わらない。母親/非母親養育と親子のアタッチメントとの関連は研究の出版年によって異なり、母親/非母親養育と子どもの適応との関連は子どもの発達指標の測定方法によって異なる。親子のアタッチメントへの影響について、保育時間と保育開始年齢とを同時に検討した結果、保育開始年齢によって影響が異なることが明らかになった。非母親養育は子どもの発達に関連しないとは言えないが、ほとんどの分析において、非母親養育はそれ自体単独で、あるいは他の要因との交互作用においても、子どもの発達に影響を及ぼさない。	△
2000	保育における同年齢・異年齢集団が親子のアタッチメントの安定性に及ぼす影響 The effect of same-age and mixed-age grouping in day care on parent-child attachment security.	オランダの2～6歳児、45名。 探索的研究。	Pool, M.M., Bijkeveld, C.C.J.H. & Tavecchio, L.W.C. Social Behavior and Personality, 28, 595-602.	親子のアタッチメント (アタッチメント Q-sort による) と、保育における同年齢集団/異年齢集団との関連を検討。 →親子のアタッチメントの安定性には、保育において同年齢集団と異年齢集団のいずれを経験しているかによる差異は見られない。また保育所の変更 (転園) も、親子のアタッチメントの安定性に影響を及ぼさなかった。	△

国外文献：アタッチメント研究的アプローチ21

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
2001	<p>母子のアタッチメント測定：ストレンジ・シチュエーションは十分か？                      Measuring infant-mother attachment: Is the strange situation enough?</p>	<p>60組の母子。(うち34名は保育を受けている)</p>	<p>Clarke-Stewart, Goossens, &amp; Allhusen.                      Social Development, 10, 143-169.</p>	<p>就労している母親と保育を経験している子どもとの関係性を測定するのに、ストレンジ・シチュエーション (SS) に代わる新しい測定法 (the California Attachment Procedure (CAP)) を考案、その妥当性を検証する。生後17ヵ月時にSS、18ヵ月時にCAPを実施。→日常的に非母親保育を経験している母子においてのみ、SSよりもCAPの方が安定群に分類される割合が高かった (CAP: 83%, SS: 67%)。SSにおいて不安定群に分類された保育を経験している子どものうち、91%はCAPにおいて安定群に分類された (SSで不安定群に分類された子どもがCAPで安定群に分類されたのは44%のみ)。非母親保育を経験している子どもにおいては特に、CAPにおけるアタッチメントの安定性は、SSにおけるアタッチメントの安定性よりも、母親の敏感性と関連していた。</p>	△

国外文献：縦断研究的アプローチ1 NICHD  
アメリカ：NICHD（国立小児保健・人間発達研究所）早期保育研究

#### <対象>

全米24の病院で1991年に生まれた子ども1364名（及びその家族）について、その後7年間の追跡調査を実施  
・人種：非ヒスパニック系白人76%、ヒスパニック系6%、アジア系/太平洋諸島系/アメリカン・インディアン1%、その他少数民族4%  
・母親の学歴：12年未満約10%、高卒約20%、カレッジ卒約33%、学士号取得20%、大学院あるいは専門的な学位保持者15%  
・研究に参加した家族の平均所得：37,781ドル（米国平均36,875ドル）参加者の約20%が国の生活補助を受けている

#### <調査内容>

情報源一親・保育者・訓練を受けた観察者・試験者  
・保育について：子ども対大人の比率・グループの大きさ・質・時間・開始年齢・ある子どもが同時に、また長期間経験した異なる保育環境の数  
・家族の特徴：経済状況・家族構成・母親の語彙（知性に代わるものとして）・母親の学歴・心理的な適性・育児姿勢・母子間の相互作用の質・子どもの最適な発育のために家庭環境がどの程度貢献しているか など  
・子どもの特徴：性別・性格など

#### <研究結果>

主に4分野に分類一①記述的成果（子どもの保育の内容について）②保育を受ける子どもにとっての家族の役割③子どもの発達と保育の関係④母子関係と保育との関係

これまでに発表された主な結果（一部）

- ・質の高い保育一母子関係・愛着関係への良い影響、問題行動の報告の少なさ、認知・言語能力の高さ、就学レディネスの高さに関連
- ・質の低い保育一母子関係・愛着関係への悪影響、問題行動の多さ、認知・言語能力の高さ、就学レディネスの低さに関連
- ・長時間あるいは長期間の保育一母子間の相互作用の弱さ・2歳時点での問題行動の多さ・愛着関係への悪影響
- ・短時間の保育一母子間の相互作用・愛着関係への良い影響、24ヶ月における問題行動の少なさ

※（株）ベネッセコーポレーション チャイルド・リサーチ・ネットワーク（CRN）2000 CRNシンポジウム「21世紀の子育てを考える」の報告より

#### <NICHDの研究結果に関してこれまでに発表された主な文献>

- NICHD Early Child Care Research Network 1994 Child care and child development: The NICHD study of early child care.  
In S.L.Friedman & H.C.Haywood (Eds.) *Developmental follow-up: Concepts, domains and methods* (pp377-396). New York: Academic Press.
- NICHD Early Child Care Research Network 1995 *Future directions: Testing models of developmental outcome*. Poster presented to a meeting of the Society for Research in Child Development, Indianapolis.
- NICHD Early Child Care Research Network 1995 *NICHD Study of Early child care sampling plan and subject recruitment*. Poster presented to a meeting of the Society for Research in Child Development, Indianapolis.
- NICHD Early Child Care Research Network 1995 *Overview and conceptual model: NICHD study of early child care*. Poster presented to a meeting of the Society for Research in Child Development, Indianapolis.
- NICHD Early Child Care Research Network 1996 Characteristics of infant child care: Factors contributing to positive caregiving. *Early Childhood Research Quarterly*, 11, 269-306
- NICHD Early Child Care Research Network 1996 *Infant child care and attachment security: Results of the NICHD study of early child care*.  
Paper presented to the International Conference on Infant Studies, Providence, RI.
- NICHD Early Child Care Research Network 1997 *The effect of infant child care on infant-mother attachment security: Results of the NICHD study of early child care*. Child Development, 68, 860-879.
- NICHD Early Child Care Research Network 1997 Familial factors associated with the characteristics of nonmaternal care of infants.  
*Journal of Marriage and the Family*, 59, 389-408.
- NICHD Early Child Care Research Network 2001 Child care and children's peer interaction at 24 and 36 months: The NICHD study of early child care  
*Child Development*, 72, 1478-1500

国外文献：縦断研究的アプローチ2

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1996	乳幼児保育の特徴：肯定的な保育に寄与する要因 (Characteristics of infant child care: Factors contributing to positive caregiving.)	乳幼児を持つ1153家庭について縦断研究	NICHD ( National Institute of Child Health and Human Development) Early Child Care Research Network Early Childhood Research Quarterly, 11, 269-306	保育とアタッチメントとの関連を様々な要因により分析。生後1～15ヶ月：母親へのインタビュー、質問紙、家庭で遊び場面。 生後6, 15ヶ月：保育場面における観察。 生後15ヶ月：Strange Situationにおけるアタッチメント測定。 →保育経験の有無によって、生後15ヶ月時においてストレンジ・シミュレーションの分離場面における苦痛の表出や愛着パターンに差は見られなかった。アタッチメントの安定性および回避得点に対する保育経験(質、量、入園時期など)の主効果はみられなかったが、母親の敏感性と応答性が有意になったものによると、母親の敏感性や相互作用が低く、かつ保育の質が低く、限度を超える長時間保育を継続しており、複数の保育(二重保育)であるような場合は、安定したアタッチメントが形成されにくい。	△
1997 a	乳児保育が母子のアタッチメントの安定に及ぼす影響：発達早期の保育に関するNICHDの研究結果 (The effect of infant child care on infant-mother attachment security: Results of the NICHD study of early child care)	乳幼児を持つ1153家庭について縦断研究	NICHD Early Child Care Research Network. <i>Child Development</i> , 68, 860-879		△
1997 b	乳児に対する非母親養育の特徴に関連する家族の要因 (Family factors associated with the characteristics of nonmaternal care for infants)	乳幼児を持つ1153家庭について縦断研究	NICHD Early Child Care Research Network. <i>Journal of Marriage and the Family</i> , 59, 389-408		△
2001	保育と24ヶ月及び36ヶ月児における仲間との相互作用 (Child care and children's peer interaction at 24 and 36 months: The NICHD study of early child care.)	NICHDの調査した1364家庭の子ども	NICHD Early Child Care Research Network. <i>Child Development</i> , 72, 1478-1500	乳児保育の対仲間コンピテンス(保育場面における観察及び保育者・母親による評定)に及ぼす影響について、家庭背景・性格特性を統制した上で検討 →保育経験のある子は保育者評定でネガティブでも、観察では遊び相手とポジティブで熟達した相互作用が見られた 母親の敏感さと子どもとの認知・言語的能力はすべての評定尺度・評定者においてポジティブな対仲間コンピテンスを予測するものであった	△

### 国外文献：縦断研究的アプローチ3

アメリカ：NLSY (National Longitudinal Survey of Youth) による一連の研究。

＜対象＞

1979年からの縦断調査。調査開始時14歳から22歳までの約12600名を対象に、毎年インタビューを実施。アメリカ系、ヒスパニック系、経済的に困窮している白人（1990年にサンプルから脱落）を含む。

1986年、1988年、1990年、1992年、1994年に、女性被験者の子ども（3～12歳）について調査を実施。

＜調査内容＞

・ドラッグの使用、アルコール依存などの問題

・教育：教育歴、IQなど。

・就労：就労復帰のタイミング、就労時間、就労復帰後の就労中断、就労の満足度など。

・家族の諸変数：婚姻形態、夫の就労時間、家庭の所得、出産年齢、子どもの性別、出生順位、民族的背景、等。

・子どもの発達：従順さ（←気質尺度）、行動発達上の問題、認知発達（←語彙テスト）、self-esteem（←自己認知尺度）、学業成績（←達成テスト：算数、文章認識、文章理解、）など

→ドラッグやアルコールが就労や子どもの発達に及ぼす影響／女性の就労について／発達早期における母親の就労が子どもの発達に及ぼす影響、等について検討。

＜結果：母親の就労が子どもの発達に及ぼす影響について＞

分析の対象とするサンプルの違い、分析方法の違いなど方法論上の問題によって、研究間で異なる結果が得られている。そのような状況をふまえて再分析を行ない、見解の統一を図ろうとしたHarvey, E. (1999)の結果を以下にまとめる。

・発達早期（生後3年間）における母親の就労は、それ自体が単独で子どもの発達に影響するとの結果は得られなかった（有意な主効果はなかった）。

・交互作用などがみられた場合もそれほど大きな関連ではなく、発達早期における母親の就労が子どもの発達に及ぼす影響は小さいといえる。

・母親の就労形態、就労のタイミング、就労の継続や中断は、子どもの発達に対して一貫した関連が見られなかった。また、就労時間が長いことは、9歳までの認知発達がわずかながら低いこと、および7歳より前の学業成績がわずかに低いことと関連していたが、行動発達上の問題や従順さ、self-esteemには有意な関連が見られなかった。

・発達早期における母親の就労は、シングルマザーや低所得家庭の子どもの認知発達にとつて、ある程度有益である。

・シングルマザーで子どもが生後3年間に就労していた場合、子どもの語彙テストの得点が高かった（わずかだが有意な関連）。

・低所得家庭においては、父親の就労時間が長いことと、子どもの語彙テスト得点の高さが関連。一方で高所得家庭においては、父親の就労時間が長いこと

と、子どもの語彙テスト得点の低さが関連。

・発達早期における母親の就労は、家庭の所得が増加することを通じて、子どもの発達に肯定的に影響するとの仮説を部分的に支持。

・民族的背景および就労への満足度は、母親の就労と子どもの発達とを媒介する要因として有意ではなかった。

・保育の質については検討していない。今後の研究においては、重要な要因として検討が必要。

＜主な文献＞

Desai, S., Chase-Lansdale, P. L., & Michael, R. T. (1989). Mother or market? Effects of maternal employment on the intellectual ability of 4-year-old children. *Demography*, 26, 545-561.

Bayder, N., & Brooks-Gunn, J. (1991). Effects of maternal employment and child-care arrangements on preschoolers' cognitive and behavioral outcomes: Evidence from the children of the National Longitudinal Survey of Youth. *Developmental Psychology*, 27, 932-945.

Belsky, J., & Eggebeen, D. (1991). Early and extensive maternal employment and young children's socioemotional development: Children of the National Longitudinal Survey of Youth. *Journal of Marriage and the Family*, 52, 1083-1110.

Vandell, D., & Ramanan, J. (1992). Effects of early and recent maternal employment on children from low-income families. *Child Development*, 63, 938-949.

Parcel, T.L., & Menaghan, E.G. (1994). Early parental work, family social capital, and early childhood outcomes. *American Journal of Sociology*, 99, 972-1009.  
 Greenstein, T.N. (1995). Are the "most advantaged" children truly disadvantaged by early maternal employment? *Journal of Family Issues*, 16, 149-169.  
 Harvey, E. (1999). Short-term and long-term effects of early parental employment on children of the National Longitudinal Survey of Youth. *Developmental Psychology*, 35, 445-459.

Rodgers, J.L., Cleveland, H.H., & Oord, E. (2000). Resolving the debate over birth order, family size, and intelligence — the apparent relation between birth order and intelligence is an illusion. Data from the National Longitudinal Survey of Youth yield a new understanding of family size, birth order, and IQ. *American Psychologist*, 55, 599-612.

国外文献：縦断研究のアプローチ 4

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1989	母親が収入か？母親の就労が4歳児の知的能力に及ぼす影響 (Mother or market? Effects of maternal employment on the intellectual ability of 4-year old children.)	NLSY で得られたサンプル 503 名 (男児 253 名 女児 250 名)	Desai, Michael Chase-Lansdale, & <i>Demography</i> , 26, 545-561	4 歳児の語彙テスト (PPVT) より母親の就労が子どもの知的発達に及ぼす影響を検討 → 重回帰分析の結果より、高収入家庭の男児においてのみ母親の就労の有意にネガティブな影響が見られた さらに、男児の乳児期における母親の就労が 4 歳時の PPVT テスト得点にネガティブな影響を及ぼすことが示された (ただしこうした場合に就労した家庭では見られなかった)	×
1991	母親の就労と保育が就学前児の認知・行動に及ぼす影響 — 全国的縦断調査の結果から ( Effects of maternal employment and child care arrangements on preschoolers' Cognitive and behavioral outcomes: Evidence from the children of the National Longitudinal Survey of Youth.)	NLSY (1986) で得られたデータより 3 ~ 4 歳児 1181 名 (白人・アフリカ系アメリカ人・ヒスパニック系を含む)	Baydar, N., & Brooks-Gunn, J. <i>Developmental Psychology</i> , 27, 932-945	1 歳時までの母親の就労の連続性・密度・タイミング及び保育アレンジメントの多様なタイプが及ぼす認知的・行動的影響について調査 → 0 歳 ~ 1 歳の時点での就労は子どものジェンダーや家庭の経済状況にかかわらず全ての子どもに認知的・行動的に不利な影響を及ぼす 祖母による養育は貧困層の子どもの認知的発達にとつても有益 行動発達面では、男児の場合は母親による養育、女児の場合はベビーシッターによる保育が最も有益であった → 乳児期の保育アレンジメントにより認知・行動の発達に及ぼす影響の違いが見られた	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1994	低収入家庭児の認知的発達における防衛因子としての保育 (Day care participation as a protective factor in the cognitive development of low-income children.)	NLSY に参加した 5・6 歳児 867 名	Caughy, M.O'B., DiPietro, J.A. & Strobino, D.M. <i>Child Development</i> , 65, 457-471	算数 (PIAT) の得点及び読解の再認得点に, 最初の 3 年間に及ぼす影響を, 経験の有無・期間・開始時期・保育の形式という 3 種類の保育パターンについて検討 ・読解再認成績に保育パターンと家庭の収入の交互作用あり。さらに, 家庭環境の質との関連についても検討 → 保育開始時期が 1 歳の誕生前のとき, 悪家庭環境の子では読解成績の高さと関連, 良家庭環境の子では低さと関連 算数の成績には保育形式と家庭環境の交互作用あり センターでの保育を受けた場合, 悪家庭環境の子では算数の成績の高さと関連, 良家庭環境の子では低さと関連	△
1999	親の早期就労が子どもに及ぼす短期的及び長期的影響 ( Short-term and long-term effects of early parental employment on children of the national longitudinal survey of youth.)	NLSY で得られたサンプル (のべ 12,6000 名)	Harvey, E. <i>Developmental Psychology</i> , 35, 445-459	早期の母親の就労と子どもの発達→関連なし 労働時間→ 9 歳時の認知能力・7 歳以前の学業成績にわずかに関連 但し, 問題行動・compliance・self-esteem には有意な差は見られず 早期に両親が就労していることは, シングルマザー家庭・低所得家庭では有益 (収入増の子どもに及ぼすポジティブな影響を支持する結果)	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1989	質の高い保育と中流階級の3歳児における言語成績の関係 (The relationship of high quality day care to middle-class 3-year-olds' language performance.)	乳児期(平均5.4ヶ月)より保育を受けた22名(男児10名、女児12名)と家庭で養育された3歳児18名(男児12名、女児6名)	Ackeman-Ross & Khanna <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 4, 97-116	乳児期から保育を受けた子どもとそうでない子どもの言語成績及びIQ得点を比較(親への質問紙から収入・親の教育歴・出生順位・親からの言語的刺激の量とタイプ・親の養育時間に関するデータも収集) →両群にIQ及び言語能力の違いが見られず IQ, 出生順位の順で言語成績を予測し, 父親の言語的働きかけと両親の教育水準が言語成績に有意に関連していた 保育経験群の父親は家庭養育群の父親の2倍の時間を子どもに費やしていた(母親はほぼ同じ時間)	△
1989	母親か収入か? 母親の就労が4歳児の知的能力に及ぼす影響 (Mother or market? Effects of maternal employment on the intellectual ability of 4-year old children.)	NLSYで得られたサンプル503名(男児253名、女児250名)	Desai, Chase-Lansdale, & Michael <i>Demography</i> , 26, 545-561	4歳児の語彙テスト(PPVT)より母親の就労が子どもへの知的発達に及ぼす影響を検討 →重回帰分析の結果より、高収入家庭の男児においての母親の就労の有意にネガティブな影響が見られた さらに、男児の乳児期における母親の就労が4歳時のPPVTテスト得点にネガティブな影響を及ぼすことが示された(ただしこころうした影響は女児・低収入家庭・子どもが1歳以降に就労した家庭では見られなかった)	×
1989	保育のタイプと障害のある子どもの就学前期の知的発達に関する関係 (Type of day care and preschool intellectual development in disadvantaged children.)	社会経済的な要因(母親の年齢・結婚状態・年齢・学歴など)において「リスクがある」とされた子ども131名(男児71名、女児60名)について縦断調査(1972~1980年の間に6つのコホートからデータ収集)	Burchinal, M.R., Lee, M., & Ramey, C.T. <i>Child Development</i> , 60, 182-187	社会経済的に困難を抱えている3つのグループ(①大学ベースの介入プログラムにおいて集団保育を集中的に受けられた子ども、②両親によってコミュニティの保育園に預けられ全く受けていない子どもからなる)について、知的発達レベルとパターンを比較 →IQレベルとパターンを比較 に保育の影響あり コミュニティの保育、介入的保育ともに社会経済的に障害のある子どもへの就学前の知的発達のレベルとパターンをポジティブに変化させることを示唆	○

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1990	貧困層家庭の子どもの知知的障害の予防 (The prevention of intellectual impairment in children of impoverished families: Findings of a randomized trial of educational day care.)	ランダムに選ばれたリストクスの高い86家庭の子どもを6ヶ月時までに調査 54ヶ月時までに調査 縦断的に調査	Martin, S.L., Ramey, C.T., & Ramey, S. <i>American Journal of Public Health</i> , 80, 844-847	教育的な保育プログラムを受けた実験群(41名)は、母親の精神遅滞と家庭環境の効果がコントロールした上でも統制(41名)群と比較してIQが7.9~20.1ポイント高く、標準の範囲のIQ(>84)をもつ子どもも13人のうち標準以下のIQ得点の子どもは実験群では6人中0人だったが、統制群では7人中6人いた	○
1990	早期保育の多様性はその後の社会的、情動的、認知的発達の違いを予測するか (Variations in early child care: Do they predict subsequent social, emotional, and cognitive deferences?)	8歳児 236名女 (男児 92名女 児 144名)	Vandell, D.L., & Corasamiti, M.A. <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 5, 555-572	乳児期から週30時間以上の集中的な保育を経験した子どもは、パートタイムの保育経験のある子どもよりも主に母親による養育を受けた子どもと比較して、教師・親評定で仲間関係・課題の習慣、また集中的な保育経験はクラスメートからのネガティブな指名と関連があり、学業成績が悪かった。重回帰分析の結果、子どもの過度な乳児期保育経験は単独でネガティブな方向への評定を予測するこたが示された。こうした結果はAndersson(1989)で示されたスウェーデンにおける保育のボジティブな影響と対照的である	×
1990	保育アレンジメントを基盤とした幼稚園児の発達 (Development of kindergarte children based on child care arrangements)	幼稚園児 835名女 (男児 378名女 児 362名)	Thornburg, K.R., Pearl, P., Crompton, D., & Ispa, J.M. <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 5, 144-148.	出生時から5歳までの保育アレンジメント(保育なし・パートタイム保育・フルタイム保育)及び0歳児の1年間における保育アレンジメントの関連について検討 →保育アレンジメントの違いは知的・運動的能力よりも社会的発達においてより予測的 家庭で養育された子どもとフルタイム保育を受けた子どもとの行動に関する変数の一部に類似性が見られた ただしいずれにおいても有意な差はなし	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1991	母親の就労と保育が就学前 児の認知・行動に及ぼす影 響—全国的縦断調査の結果 から ( Effects of maternal employment and child care arrangements on preschoolers' Cognitive and behavioral outcomes: Evidence from the children of the National Longitudinal Survey of Youth.)	NLSY (1986) で 得られたデータ より 3～4 歳児 1181 名 (白人・アフ リカ系アメリカ 人・ヒスパにニ ック系を含む)	Bayder, N., & Brooks-Gunn, J. <i>Developmental Psychology</i> , 27, 932-945	調査内容・結果 1 歳時までの母親の就労の連続性・密度・タイムラグ及 び保育アレンジメントの多様なタイプが及ぼす認知的・ 行動的影響について調査 → 0 歳～1 歳の時点での就労は子どもジェンダーや家 庭の経済状況にかかわらず全ての子どもに認知的・行 動的に不利な影響を及ぼす → 祖母による養育は貧困層の子どもの認知的発達にとつ て最も有益 → 行動発達面では、男児の場合は母親による養育、女児 の場合はベビーシッターによる保育が最も有益であっ た → 乳児期の保育アレンジメントにより認知・行動の発達 に及ぼす影響の違いが見られた	△
1991	乳児保育の質と学校での行 動及びパフォーマン (Quality infant day care and grade school behavior and performance.)	5～8 歳児 (平 均 7 歳) 28 名 — データ I 6 年生 (平均 11.5 歳) 56 名 — データ II	Field, T. <i>Child Development</i> , 62, 863-870	安定した質の高い保育の経験と学校での行動及び成績の 関連を 2 つの縦断研究データより検討 データ I : 安定・フルタイムの乳児保育, 質の高い就学 前保育を経験した群 → 保育の期間と友達の数, 課外活動に正の相関あり。ま た, 保育時間の長さとも親評定による感情的な安定, リ ンダーシツプ, 人気, 魅力, 主張性と正の相関, 攻撃 性と負の相関 データ II : 安定・フルタイムだが質は多様な保育を経験 した群 → 保育期間と教師評定による感情的な安定, 魅力, 主張 性との間に関連。さらに, 質の高い保育をより長時間 受けた子どもは仲間との相互作用においてより身体的 な接触を示し, 与えられたプログラムによりよりよく従事 し, 数学の成績がより良かった	○
1992	高リスク児と IQ (High-risk children and IQ: Altering intergenerational patterns.)	介入プログラム を受けた実験群 52 名, 統制群 52 名 (それぞれ 4 つのコホート)	Ramey, C.T. <i>Intelligence</i> , 16, 239-256	家庭環境・出生時体重などからリスクが高いとされる子 どもを対象とした Abecedarian Experiment における介入の 効果を検討 → 早期の知的発達, 学校教育へのレディネス, それに続 く学業成績へのポジティブな効果を支持する結果	○

発成年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1994	就学前期における保育及び介入が貧困家庭の幼稚園児の語りスキルに及ぼす影響 (The effects of day care and intervention in the preschool years on the narrative skills of poverty children in kindergarten.)	貧困層の幼児89名(半数が介入を受けた実験群, 残り統制群)	Feagans, L.V., & Farran, D.C. <i>International Journal of Behavioral Development</i> , 17, 503-523	実験群のほうが統制群よりも物語の理解や並べ替えの課題成績が良かった(但し2回の測定のうち先に行った1回のみ)	○
1994	低収入家庭児の認知的発達における防衛因子としての保育 (Day care participation as a protective factor in the cognitive development of low-income children.)	NLSYに参加した5・6歳児867名	Caughy, M.O.B., DiPietro, J.A. & Strobino, D.M. <i>Child Development</i> , 65, 457-471	算数(PIAT)の得点及び読解の再認得点に, 最初の3年間における保育が及ぼす影響を, 経験の有無・期間・開始時期・保育の形式という3種類の保育パターンについて検討 ・読解再認成績に保育パターンと家庭の収入の交互作用あり。さらに, 家庭環境の質との関連についても検討 →保育開始時期が1歳の誕生日のとき, 悪家庭環境の子では読解成績の高さと関連, 良家庭環境の子では低さと関連 算数の成績には保育形式と家庭環境の交互作用あり センターでの保育を受けた場合, 悪家庭環境の子では算数の成績の高さと関連, 良家庭環境の子では低さと関連	△
1995	早期の保育経験と幼児期に家族・性格との関連 (Early child care experiences and their association with family and characteristics during middle childhood)	6-12歳児333名女 (男児147名 女児186名)	Burchinal et al <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 10, 33-61	早期の保育及び母親の就労の長期的な影響を回想的データにより検討 →知的・社会的・行動的発達及び親子関係は保育・母親の就労と関連がみられた 保育は知能テスト(WISC-R)の言語得点におけるわずかな高さと関連が見られ, また行動チェックリスト(CBCL)の外面化得点とも関連していた さらに, アフリカ系アメリカ人の子どもでは, センターにおける保育を受けた子どもは10ポイント言語知能が高く, 親・教師評定におけるポジティブな行動の評定値が高かった	○

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1998	乳児の社会・家族におけるリスク要因 (Social and family risk factors for infant development at one year: An application of the cumulative risk model.)	保育園に通うアフリカ系アメリカ人の12ヶ月児83名(うち女児は53%・3/2は低収入層)	Hooper, S.R., Burchinal, M.R., Roberts, J.E., Zeisel, S., Neebe, E.C. <i>Journal of applied developmental psychology</i> , 19, 85-96	リスク要因(貧困の状態・母親の教育が高卒以下・家庭の大きさ・母親が未婚・ストレスフルなライフイベントの経験・母親の抑鬱感情・母子間の相互作用・母親のIQ・家庭環境の質・保育環境の質)の累積モデルと認知言語発達に関連について検討 →言語発達の尺度と有意な関連あり	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1985	介入としての保育一質的に多様なプログラムの比較 (Day care as intervention : comparisons of varying quality programs.)	3歳以上の子どもも166名(うち22名が介入群)	MacCartney et al. <i>Journal of applied developmental Psychology</i> , 6, 247-260	政府の運営する質の高い保育プログラムに参加した低収入層家庭の子どもの知的・言語的・社会的スキル発達を、多様な質の保育を受けた子どもと比較 →介入群は保育者評定によりコミュニケーションスキルがより高いとされ、また、親・保育者評定双方においてより高いと思慮深く社会的とされた(不適応・依存性には差は見られず) →同じ低収入層家庭の子どもと比較した場合、語彙・言語テストにおいて介入群のほうが高得点を示した	○
1985	多様な保育経験を持つ子ども の学校での攻撃性 ( Public school aggression among children with varying day-care experience.)	1972年～1975年からの縦断調査協力者のうち59名について、公立学校2・3年時まで追跡調査	Haskins, R. <i>Child Development</i> , 56, 689-703	教師による攻撃性の評定及び仲間関係の維持・葛藤回避のための方略使用・関連するスキルや行動に関する報告。多変量解析の結果より、cognitive orientedな保育プログラムを受けた子どもはその他の保育を受けた子どもよりも攻撃的。ただし、時間の経過とともにその傾向は減少	△
1987	保育の質と子どもの社会的発達 ( Child-care quality and children's social development.)	36～68ヶ月児166名(多様な質の保育園に所属)	Phillips, D.A., MacCartney, K., & Scarr, S. <i>Developmental Psychology</i> , 23, 537-543.	保育環境の質が子どもに社会的発達に及ぼす影響について検討(年齢・保育経験・家庭環境については統制) (方法：観察及び保育者・親に対する質問紙) →保育の全体的な質・保育者と子ども間の言語的な相互作用・保育指導者の経験はそれぞれ子どもに社会的発達をよく予測する →家庭環境もいくつかの社会的発達に関する指標を有意に予測する(保育経験はほとんど影響なし)	△
1988	幼い子どもにとって最もよい保育の形式とは何か フランスにおける調査 (What is the best mode of day care for young children: A French study)	フランスの9ヶ月～4歳児計262名(男女同数)	Baileyguier, G. <i>Early Child Development and Care</i> , 33, 41-65	乳児期に受けた保育のパターン：家庭での親による養育・家庭での親以外による保育・家庭外保育の3群×年齢：9ヶ月・2歳・3歳半の3群の子どもについて、気質・関係性の発達、養育者の態度などを調査 →乳児期保育のパターンによる違いは見られなかったものの、保育園に入る頃には違いは見られなくなる 各保育パターン毎の改善策について提言	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1988	乳児保育が促進する就学前期の社会的行動 (Infant day care facilities preschool social behavior.)	24ヶ月でフルタイム保育を受けた子ども36名 (男児17名、女児19名)及びパートタイムで受けた子ども35名 (男児16名、女児19名) 計71名	Field, T., Masi, W., Goldstein, D., & Parl, S. <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 3, 341-359	親との再会場面での相互作用について検討 →保育開始時期(生後6月以前/以後)には愛着, 社会的スキル・行動評定に有意な影響見られず ・保育を長期間・長時間受けていた子どもは一人で遊びや教師に安らぎを求め行動が少なく, 協同遊びやポジティブな感情や仲間との相互作用, 言語によるポジティブなやりとりが多く見られた →連続的な乳児保育は就学前期の社会的行動を促進し, 愛着行動にネガティブな影響は与えない	○
1989	公的保育の効果に関する縦断的研究 (Effects of public day care: A longitudinal study)	スウェーデンの幼児119名について0~8歳時まで縦断調査(0歳時については回想データ)	Andersson, B.E. <i>Child Development</i> , 60, 857-866	7歳時までに受けた保育のタイプ・保育開始時により対象児を分類した上で, 8歳の時点で, 適性テストと学業成績及び社会的発達(教師評定による)を調査 →保育開始時子どもの性別・家庭背景を統制した場合でも認知的・社会情緒的発達を予測(1歳以前に保育を開始した子どもは保育開始時期の遅い子ども・家庭で養育された子どもに比べて一般的に成績や評定を得ていた)	○
1990	保育経験の異なる幼稚園児の攻撃性及び主張性 (Aggression and assertiveness in Kindergarten children differing in day care experiences.)	8つの異なる幼稚園のクラスに在籍する子ども(月齢68~81ヶ月)32名(男児同数)	Hegland, S.M. & Rix, M.K. <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 5, 105-116	2人の研究者によるポジティブな社会的行動・主張性・道具を用いた攻撃・敵意のある攻撃の観察及び主張性・仲間とうまくやっつけていく能力・敵意のある攻撃・道具を用いた攻撃に関する教師評定の結果から, 乳児期に保育を受けた群とそうでない群を比較 →観察・教師評定どちらの結果においても, 保育を受けた子どもとそうでない子どもとの間に差はなかった	△
1990	保育を受けた幼稚園児の発達 (Development of kindergarten children based on child care arrangements)	幼稚園児835名 (男児378名、女児362名)	Thornburg, K.R., Pearl, P., Crompton, D., & Ispra, J.M. <i>Early Childhood Research Quarterly</i> , 5, 144-148.	出生時から5歳までの保育アレンジメント(保育なし・パートタイム保育・フルタイム保育)及び0歳児の1年間における保育アレンジメントの関連について検討 →保育アレンジメントの違いは知的・運動的能力よりも社会的発達においてより予測的 家庭で養育された子どもとフルタイム保育を受けた子どもとの行動に関する変数の一部に類似性が見られた ただしいわずれにおいても有意な差はなし	△

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1990	<p>早期保育の多様性はその後の社会的、情動的、認知的発達の違いを予測するか (Variations in early child care: Do they predict subsequent social, emotional, and cognitive differences?)</p>	<p>8歳児 236名女 (男児 92名女 児 144名)</p>	<p>Vandell, D.L., &amp; Corasaniti, M.A. <i>Early Childhood Research Quarterly</i>, 5, 555-572</p>	<p>乳児期から週30時間以上の集中的な保育を経験した子どもは、パートタイムの保育経験のある子どもや主に母親による養育を受けた子どもと比較して、教師・親評定で仲間関係・課題の習慣、感情的健康が良くなく、またメトリックが困難とされた。また集中的な保育経験は、学業成績が悪かった。重回帰分析の結果、子どもへの過度な乳児期保育経験は単独でネガティブな方向への評定を予測するこたが示された。こうした結果は Andersson (1989) で示されたスウェーデンにおける保育のポジティブな影響と対照的である</p>	×
1990	<p>保育開始時期と保育の質は幼稚園での適応を予測できるか? (Can the age of entry into child care and the quality of child care predict adjustment in kindergarten?)</p>	<p>男児 39名女児 41名計 80名に ついて 18ヶ月 より縦断調査</p>	<p>Howes, C. <i>Developmental Psychology</i>, 26, 292-303</p>	<p>保育開始時期・保育の質・家族背景が社会的適応に及ぼす影響について縦断的に(幼児期・就学前期・幼稚園時代)検討 → 質の悪い保育環境に早期に入れられた子どもは就学前期最も仲間関係に問題があり、気が散りやすく、また幼稚園で他者を思いやることが少なかった</p>	×
1990	<p>低体重、未熟児の発達促進 - 多角的・無作為的試行より (Enhancing the outcomes of low-birth-weight, premature infants: A multisite, randomized trial.)</p>	<p>研究上のサンプルは低体重児 135名 (2001 ~ 25000g - A群 45名, 2000g以下 - B 群 90名)</p>	<p>Infant Health and Development Program <i>Journal of the American Medical Association</i>, 263, 3035-3042</p>	<p>介入群(週1回の家庭訪問による情報提供・12 ~ 36ヶ月までのカリキュラムに基づいた保育週5日・親同士のミーティング)とfollow-up群を36ヶ月の時点で比較 → 介入群のIQは有意に高く(A群で平均13.2, B群で平均6.6)母親からの行動上の問題の報告も少なかった</p>	○

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1991	<p>母親の就労と保育が就学前                      子供の認知・行動に及ぼす影                      響 - 全国的縦断調査の結果                      から                      (Effects of maternal                      employment and child care                      arrangements on preschoolers'                      Cognitive and behavioral                      outcomes: Evidence from the                      children of the National                      Longitudinal Survey of                      Youth.)</p>	<p>NLSY (1986) で                      得られたデータ                      より                      3 ~ 4 歳児 1181                      名 (白人・アフリ                      カ系・ヒスパニック                      系を含む)</p>	<p>Bayder, N., &amp; Brooks-Gunn, J.  <i>Developmental Psychology</i>, 27,                      932-945</p>	<p>1 歳時までの母親の就労の連続性・密度・タイムラグ及び                      保育アレンジメントの多様なタイプが及ぼす認知的・                      行動的影響について調査                      → 0 歳 ~ 1 歳の時点での就労は子どもへのジェンダーや家                      庭の経済状況にかかわらず全ての子どもにも認知的・行                      動的に不利な影響を及ぼす                      祖母による養育は貧困層の子どもの認知的発達にとつ                      て最も有益                      行動発達面では、男児の場合は母親による養育、女児                      の場合はベビーシッターによる保育が最も有益であつ                      た                      → 乳児期の保育アレンジメントにより認知・行動の発達                      に及ぼす影響の違いが見られた</p>	△
1991	<p>乳児保育の質と学校での行                      動及びパフォーマン                      ス                      (Quality infant day care and                      grade school behavior and                      performance.)</p>	<p>5 ~ 8 歳児 (平                      均 7 歳) 28 名                      - データ I                      6 年生 (平                      均 11.5 歳) 56 名                      - データ II</p>	<p>Field, T.  <i>Child Development</i>, 62, 863-870</p>	<p>安定した質の高い保育の経験と学校での行動及び成績の                      関連を 2 つの縦断研究データより検討                      データ I : 安定・フルタイムの乳児保育, 質の高い就学                      前保育を経験した群                      → 保育の期間と友達の数, 課外活動に正の相関あり。ま                      た, 保育時間の長さとの感情的な安定, リ                      ーダーシップ, 人気, 魅力, 主張性と正の相関, 攻撃                      性と負の相関                      データ II : 安定・フルタイムだが質は多様な保育を経験                      した群                      → 保育期間と教師評定による感情的な安定, 魅力, 主張                      性との相関に弱く, さらには質の高い保育をより長期間                      受けた子どもは仲間との相互作用においてより身体的                      な接触を示し, 与えられたプログラムによりよりよく従事                      し, 数学の成績がより良かった</p>	○

国外文献：行動発達のアプローチ 5

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1991	教師と子どもの関係－教室及び家庭での行動の関連 (Relationship between children and teachers: Associations with classroom and home behavior.)	幼稚園児 72 名 (男児 34 名 女児 38 名) クラス担任 24 名が 3 名ずつ評定	Pianta, P.C., & Nimetz, S.L. <i>Journal of Applied Developmental Psychology</i> , 12, 379-393	38 項目からなる保育者－園児の関係尺度 (STRS) を使用 → secure, improved, dependent の 3 因子・性差はなし (各因子に示される幼稚園での保育者と子どもとの関係について) secure な関係：母親に対する感情・家庭、幼稚園及び小学校 (1 年時) でのコンピテントな行動と関連 dependent な関係：母親へのネガティブな感情・問題の行動化 (acting-out)・学校での問題行動と関連 improved な関係：小学校 1 年時でのポジティブな適応と関連	△
1992	保育が認知及び社会情緒的コンピテンスに及ぼす影響 (Effects of day care on cognitive and socioemotional competence of thirteen-year-old Swedish school children.)	128 名の子どもについて、0 歳の時点から縦断調査 (8 歳時 - 92%・13 歳時 - 89%が残った)	Anderson, B.E. <i>Child Development</i> , 63, 20-36	保育開始時により分類した子どもの認知・社会情緒的能力を教師が評定 → 1 歳までに開始した子どもは 8・13 歳の時点で学校での成績がよく、社会情緒に関する評定の値が高かった * SES やジェンダーを含めたモデルを示唆	○
1993	低体重、未熟児の発達促進－3 年間の認知及び行動における変化 (Enhancing the development of low-birthweight, premature infants: Changes in cognition and behavior over the first three years.)	出生時低体重児 (LBW) 985 名 (IHDP 計画による調査)	Brooks-Gunn, J., Klebanov, P.K., Liaw, F., & Spieker, D. <i>Child Development</i> , 64, 736-753	認知及び問題行動に関する 3 年間の介入の効果について検討 ・ 24・36 ヶ月時における認知得点に効果 (× 12 ヶ月時) ・ 同じく介入群の方が統制群よりも問題行動が少なかった * LBW やその他の問題を持つ子どもに対するサービスの時期と対象について考察	○

発表年	論文タイトル	対象	発表者・発表雑誌・学会	調査内容・結果	効果
1994	<p>子どもとの仲間関係一教師と子どもとの関係に関連した差異 (Children's relationships with peers: Differential associations with aspects of the teacher-child relationship.)</p>	<p>乳児期に保育を受けた4歳児48名</p>	<p>Howes, C., Hamilton, C.E. &amp; Matheson, C.C. <i>Child Development</i>, 65, 253-263</p>	<p>仲間との関係における社会的コンピテンスと教師（保育者）との関係の関連を検討 ・ 幼児期に教師と安定した関係 → 敵意をもった攻撃行動が少なく、複雑な仲間遊びや社交的な行動が多い ・ 就学前の時期に教師に依存的な傾向 → 引っ込み思案、攻撃行動が多い ・ 幼児期の教師によるポジティブな社会化 → 仲間からの受容 ・ 就学前期の教師によるネガティブな社会化 → 複雑な仲間遊びの少なさを、ためらい、突発的な性質、気むずかしさ</p>	○
1994	<p>早期の保育欠如が就学後の子どもとの社会的コンピテンス及び学業成績に及ぼす影響 (Lack of early child care effects on school-age children's social competence and academic achievement.)</p>	<p>男児 65 名, 女児 62 名計 127 名について 5・6・7・8 歳時に縦断調査</p>	<p>Chin-Qee &amp; Scarr <i>Early Development and Parenting</i>, 3, 103-112</p>	<p>教師評定による社会的コンピテンスと学業成績 → 就学前期においては保育の質が重要 ただし小学入学後の1～4年後には重要でない 低学年では保育の質・量でなく家庭環境が予測的 就学年齢までには乳児保育・就学前保育経験の影響は影響力の強いものではないが、家庭環境は重要であり続ける</p>	△
1994	<p>子どもの保育史と幼稚園での適応 (Child care history and kindergarten adjustment.)</p>	<p>幼稚園入園前の子ども(5歳児)589名について両親に対し質問紙及び面接により調査</p>	<p>Bates, J., Marvinney, D., Kelly, T., Dodge, K.A., Bennett, D.S., &amp; Pettit, G. <i>Developmental Psychology</i>, 30, 690-700</p>	<p>後に教師・仲間・観察者評定により学校での社会的適応を査定 → 0～1・1～4・4～5歳の3つの期間のそれぞれにおいて保育量の多かった子どもは複合的にネガティブな適応得点が高く、ポジティブな適応得点が低かった(ただし、教師評定による内面的問題得点は低かった)家庭でのストレスや社会経済状況を統制した上でも適応を予測予測（乳児期の保育経験自体は適応を予測せず）</p>	△